

水が拓く緑の夢空間 那須野

"The green dream place which water opens up Nasuno" Ecomuseum Nasunogahara-Seibu

五月女 寛行

SOUTOME Hiroyuki

1. 目的 本地区は、明治期の殖産興業政策を象徴する那須野が原開拓の歴史を現代に伝える日本三大疏水の一つである那須疏水や、明治期の元勲や地元有志による大規模農場群など全国に向けて誇れる開拓の地域であるとともに、会津中街道、原街道や暮沼用水、扇状地特有の湧水群など、歴史と自然環境に恵まれた豊かな田園空間が広がる地域である。これら歴史と文化に育まれた地域資源を田園空間に広がる展示施設として保全復元を図り、コア施設(総合案内所)の整備と合わせて、都市と農村とのふれあい共生を目指して、那須野が原に息づく伝統と文化を守り育てる。

2. コンセプト、キャッチフレーズ 湧水や暮沼用水、那須疏水の「水」、そして明治期の「開拓」の歴史により育まれてきた在地と開拓の融合した文化をもつ豊かな田園空間を保全していくものとし、『水と開拓の歴史に育まれた豊かな大地』をコンセプトに、またこの地の自然や歴史・文化、そして開拓の夢や那須野が原の広がりを多くの人々がイメージできるよう『水が拓く緑の夢空間 那須野』をキャッチフレーズとした。



ロゴマーク

3. 事業の概要 田園空間博物館那須野が原西部地区は、栃木県北部の那須塩原市(旧西那須野町、旧塩原町)の7,000haを対象に、平成12年度から実施している。整備施設は下記のように市の「那須野が原博物館」と併設した総合案内所1箇所のほか、展示施設(サテライト)を26箇所整備している。一方整備しない展示施設は124箇所を数え、これら展示施設を巡るフットパスを10コース設けている。

コア施設(総合案内所)		1箇所
展示施設(サテライト)	集落水辺環境整備	6箇所
	景観保全整備	15箇所
	歩行者専用遊歩道整備	1箇所
	住民参加促進環境整備	3箇所
	特認	1箇所

4. 住民参加 旧西那須野町においては昭和40年代後半、企業誘致等による新旧住民からなる混住社会が形成され、交通安全対策や生活環境整備等広域的問題が発生した結果、行政区を越えた小学校通学区を単位とするコミュニティが発足した。コミュニティはテーマを決めて地域づくりに取り組み、まちづくり計画書の作成や町のマスタープラン策定に関わるなどの活動を展開している。

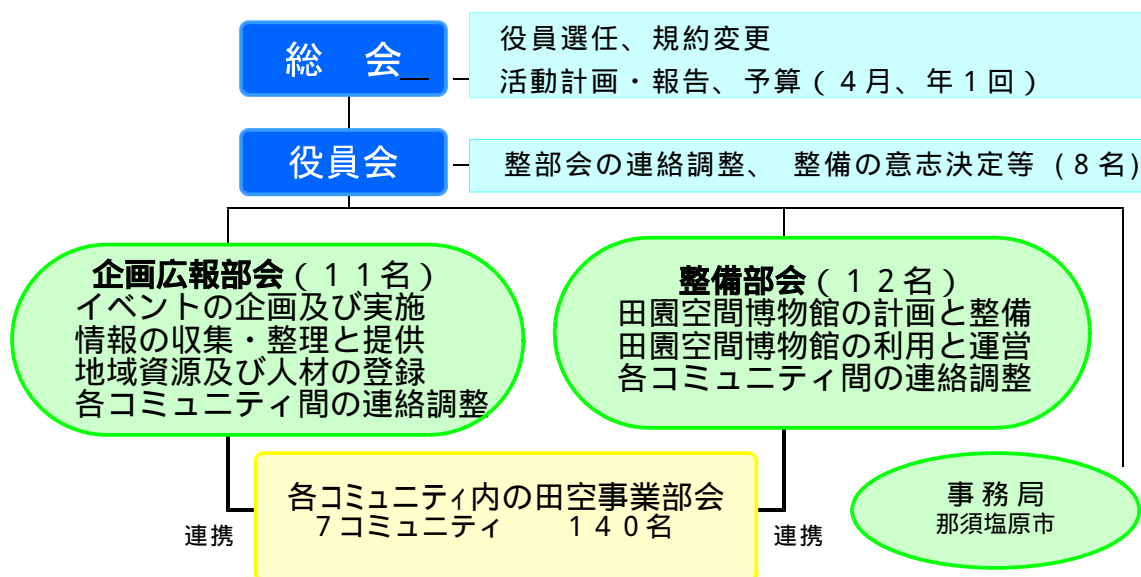


また町の歴史の紹介や案内活動をするボランティア団体、那須野が原の自然を観察する団

体等もそれぞれ活動している。田園空間博物館の運営は地域住民が主体となっていくことを目的にしていることから、計画段階から住民の意向を反映させることが必要と考え、コミュニティや住民団体の代表者等からなるワークショップを開き、田園空間博物館の基本となる計画を作成した。

5. 運営協議会 運営協議会はコミュニティの代表者を中心に農業団体や住民団体などからなる17団体29名の組織で、田園空間博物館を運営するための、田園空間整備事業の推進や各種活動の企画・立案、博物館の普及・啓発、地域資源の掘り起こしなどを行っている。また各コミュニティ内に田園空間博物館に係る部会が設置されなどコミュニティ活動が活性化している。

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会 組織図 (17団体 29名)



6. 各種活動 運営協議会企画広報部会は、はじめの活動として田園空間博物館という分かりづらい言葉を地域に浸透させるため、市の産業文化祭やコミュニティ祭等でサテライト写真展やチラシの配布を行うとともに、年2回「田空だより」を発行するなどPRを中心とした活動を展開している。またホームページの開設やサテライトのオープニングイベント、サテライトを活用した田園ウォークなども行い、情報の発信や施設の紹介を積極的に実施している。整備部会においては案内板の統一デザインの選定やロゴマークの検討、フットパス道標の検討などを、各コミュニティ部会においては数回に及ぶサテライト整備内容の検討や、サテライトと順路を紹介した地域マップの作成、サテライトの清掃などを行うなど少しずつではあるが、着実に地域活動がなされている。



7. 今後 田園空間整備事業が18年度で完了することから、運営協議会においては田園空間博物館と市的那須野が原博物館との密接な連携のもと地域内外へ効果的に情報発信するとともに、仲間を増やしさらなる活動ができる体制づくりが必要と考えられる。これからも地域資源の保全・活用を図ることで美しい田園空間の創造と地域の活性化を目指していく。